

日本学術会議 基礎医学委員会 神経科学分科会(第25期・第5回)
臨床医学委員会 脳とこころ分科会(第25期・第5回)
議事録

- 1, 開催日時 令和5年3月22日(水) 10:00~11:30
- 2, 開催場所 オンラインビデオ会議

3, 出席者(敬称略)

(神経科学分科会) 21名中16名

出席者: 池田和隆、伊佐正、入来篤史、大隅典子、岡部繁男、岡本仁、大木研一、上口裕之、川人光男、佐倉統、定藤規弘、仲嶋一範、西田眞也、柚崎通介、渡辺雅彦、渡部文子

欠席者: 岡野栄之、上川内あづさ、見学美根子、合田裕紀子、平井宏和

(脳とこころ分科会) 38名中22名

出席者: 池田和隆、池淵恵美、伊佐正、岡部繁男、尾崎紀夫、加藤忠史、萱間真美、川人光男、坂田省吾、積山薫、高橋良輔、内匠透、戸田達史、林朗子、古屋敷智之、松井三枝、三品昌美、水口雅、南雅文、三村将、山脇成人、渡辺雅彦

欠席者: 青木茂樹、内富庸介、笠井清登、神尾陽子、神庭重信、國井泰人、熊谷晋一郎、齋藤延人、高橋英彦、林由紀子、坂内博子、藤井幸彦、寶金清博、吉田眞理、三島和夫、村井俊哉

4, 議事次第

- (1) 第26期(2023年10月1日—2026年9月30日)での神経倫理に関する見解発出について(資料1、参考資料1)(伊佐委員長)
- (2) 学術会議シンポジウム「心の病の脳科学」(案)について(資料2、参考資料2, 3)(高橋委員長、林幹事)

(1) 「神経科学領域における倫理的課題」に関する見解発出(伊佐委員長)

見解作成に関する進捗とその内容、および今後のスケジュールに関して報告があり、それに対して議論が行われた。定藤委員より、各章ごとにまとめられており分かりやすい一方、結語などに重複が多く、そのような共通部分に関しては、最終部にまとめることが提案された。高橋委員長から、慢性疼痛の見解を参考にし、各章

について 1~2 行でまとめ、最後に据えることでインパクトがある見解になるという意見が出された。佐倉委員より、臨床医学や技術工学との融合に関する言及の補強が指摘された。尾崎委員よりオルガノイドに関する記述に関して訂正案がだされた。具体的には、誤ったメッセージとして捉えかねない表現や我が国の法による定義との齟齬を生まないようにするための訂正案である。加えて、作成に関しては、他の章と同様、倫理系の研究者が単独ではなく、これまでの歴史や現在の到達点、PPI などを熟知している医学系研究者とのペアで記述することが提案された。加藤副委員長より、遺伝子組み換え実験を始めとして、これまで研究は研究者サイドの自主規制で行われてきたのであり、研究者側から法整備を提案するのはおかしい、という意見が述べられた。なお今期発出予定の着床前遺伝学的検査に関する提言により、広く生命倫理の検討を所管する公の機関の設置を提案する。池淵委員より、現在の目覚ましい技術発展の中で、それに対する倫理的な配慮の現状、そして将来起こりうる事象に関して別途記載し、議論点を明確に記載することで、見解の重要性やインパクトが上昇する旨が述べられた。岡本委員からは、原因が明確に判明して酵素補充や遺伝子治療などの治療法の道筋が見えてきている希少疾患に関して言及すること提案された。これに対しては、希少疾患に関してはある程度コンセンサスが確立していること、今期発出予定のヒトゲノム編集に関する提言でもカバーすること、今回の見解に関しては、より議論を必要とする事例に重みをつけることとなった。岡部委員より、アンコンシャスバイアス、インプリシットバイアスに関して話題提供があった。これらバイアスに関して、大学で講習およびテスト、そのテストに対してトレーニングまで行われているが、科学的根拠に照らして議論されていないことに対する問題提起である。もう一つの議題は、アカデミアの寄付講座とその寄付元である各種財団との関係である。各財団がどのように科学倫理を捉えているかということと、このような寄付講座がどれだけの自由度を持ち研究活動ができるのか、アカデミアの自由が保障されるのか等、今後問題になる可能性である。本件に関しては、佐倉委員から、一般論的な利益相反として記載することが提案された。アンコンシャスバイアスに関して、加藤委員より、心の中まで規制することが進められることは議論が必要であり、その際に、人文系とも連携するべきと提案された。同様に、西田委員より、このようなバイアスに関しては、科学的エビデンスが無いかと言えばあるのだけど、このようなエビデンスを利用するべきかという逆圧力がアカデミアにかかることは政治的で危険であることは指摘したほうが良いだろうと提案された。以上の議論を踏まえて、他の意見があるようならば、連休前までに伊佐委員長および高橋委員長に意見を提出し、その後、とりまとめに入るというスケジュールとなった。

(2) 学術会議シンポジウム「心の病の脳科学」

高橋委員長・林幹事より、R5年の公開シンポジウムとして、脳とこころ分科会からシンポジウムの提案があった。日時としてはR5年8もしくは9月の平日にオンラインで行うこと、演者の選定に関しては、脳とこころ分科会分科会が行われることが承認された。またシンポジウムの内容に意見がある場合は3月31日までに林、加藤、古屋敷、高橋のいずれかに連絡をいただくようお願いした。公開シンポジウムの動画を後日配信することも提案された。他提案として、山脇委員より、「心」は「こころ」と表記した方が良い旨、池淵委員より、脳科学だけでなく社会心理なども含めた包括的な要素も含めた方が良いことが提案され、承認された。

以上。